



# セキュリティ用のボイスメール ポートの設定

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ボイスメールのセキュリティの概要 \(P.6-2\)](#)
- [デバイスセキュリティモードの設定 \(P.6-4\)](#)
- [セキュリティ デバイス システム デフォルトの設定 \(P.6-5\)](#)
- [単一デバイスに対するデバイスセキュリティモードの設定 \(P.6-7\)](#)
- [Voice Mail Port Wizard での Device Security Mode の設定 \(P.6-9\)](#)
- [認証または暗号化のためのボイスメールポートの検索 \(P.6-10\)](#)
- [Device Security Mode 設定 \(P.6-11\)](#)
- [セキュアボイスメールポート設定用チェックリスト \(P.6-12\)](#)

## ボイスメールのセキュリティの概要

Cisco CallManager ボイスメール ポートおよび Cisco Unity SCCP デバイスに対してセキュリティを設定すると、各デバイスが他のデバイスの証明書を受け入れた後に、認証済みデバイスに対して TLS 接続（ハンドシェイク）が開始されます。また、システムはデバイス間で SRTP ストリームを送信します。これは、デバイスで暗号化を設定した場合です。

デバイス セキュリティ モードが認証済みまたは暗号化済みになっている場合、Cisco Unity TSP は Cisco CallManager TLS ポートを介して Cisco CallManager に接続します。セキュリティ モードがノンセキュアになっている場合、Cisco Unity TSP は Cisco CallManager SCCP ポートを介して Cisco CallManager に接続します。

セキュリティを設定する前に、次の情報を考慮してください。

- このマニュアルでは、サーバという用語は Cisco CallManager クラスタ内のサーバを意味します。ボイスメール サーバという用語は Cisco Unity サーバを意味します。
- このバージョンの Cisco CallManager では Cisco Unity 4.0(5) 以降を実行する必要があります。
- Cisco Unity Telephony Integration Manager を使用して Cisco Unity のセキュリティ タスクを実行する必要があります。これらのタスクの実行方法は、『*Cisco CallManager Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。
- この章で説明する手順に加えて、クラスタ内の各サーバで C:\Program Files\Cisco\Certificates に Cisco Unity 証明書をコピーする必要があります。このタスクの詳細については、『*Cisco CallManager Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。  
証明書をコピーした後、クラスタ内の各サーバで Cisco CallManager サービスを再起動する必要があります。
- 何らかの理由で Cisco Unity 証明書の有効期限が切れた場合や証明書が変更された場合は、新規証明書がクラスタ内の各サーバに存在することを確認してください。証明書が一致しないと TLS 認証は失敗し、ボイスメールは Cisco CallManager に登録できないため機能しません。
- Cisco Unity Telephony Integration Manager で指定する設定は、Cisco CallManager Administration で設定されているボイスメール デバイス セキュリティ モードと一致している必要があります。



---

**ヒント**

デバイス セキュリティ設定が Cisco CallManager と Cisco Unity で一致しない場合は、Cisco Unity ポートが Cisco CallManager に登録できず、Cisco Unity はそれらのポートでコールを受け入れることができません。

---

- デバイス セキュリティ モードを変更するには、Cisco CallManager デバイスをリセットして Cisco Unity Integration Manager を再起動する必要があります。Cisco CallManager Administration で設定を変更した場合は、Cisco Unity でも設定を変更する必要があります。

## デバイス セキュリティ モードの設定

デバイスに認証または暗号化を設定するには、次の作業のいずれか1つを実行します。

- ボイスメールポートおよびサポートされる電話機モデルに、システムデフォルトのデバイスセキュリティモードを設定する。
- Cisco CallManager Administration の Voice Mail Port Configuration ウィンドウで、単一デバイスにデバイスセキュリティモードを設定する。
- Cisco Bulk Administration Tool を使用して、サポートされるボイスメールポートにデバイスセキュリティモードを設定する。

### 関連項目

- [ボイスメールのセキュリティの概要 \(P.6-2\)](#)
- [対話および制限 \(P.1-6\)](#)
- [セキュリティデバイス システム デフォルトの設定 \(P.6-5\)](#)
- [単一デバイスに対するデバイスセキュリティモードの設定 \(P.6-7\)](#)
- [Voice Mail Port Wizard での Device Security Mode の設定 \(P.6-9\)](#)
- [Device Security Mode 設定 \(P.6-11\)](#)
- [セキュア ボイスメールポート設定用チェックリスト \(P.6-12\)](#)

## セキュリティ デバイス システム デフォルトの設定



(注) この手順では、変更内容を有効にするためにデバイスをリセットして Cisco CallManager サービスを再起動する必要があります。

**Device Security Mode** エンタープライズ パラメータは、電話機とボイスメール ポートの両方に適用されます。このエンタープライズ パラメータを設定すると、すべてのボイスメール ポート、およびクラスタ内の Cisco IP Phone モデル 7940、7960、7970 に適用されます。

4.1(3) アップグレード前にこの設定が **Authenticated** または **Encrypted** として表示される場合は、**Voice Mail Port** ウィンドウで **Device Security Mode** を更新するまでボイスメール ポートがノンセキュアとして設定されていることに注意してください。

セキュリティ デバイス システム デフォルトを **Authenticated** または **Encrypted** に設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で **System > Enterprise Parameters** の順に選択します。
- ステップ 2** Security Parameters セクションで **Device Security Mode** を探します。
- ステップ 3** ドロップダウンリストボックスから、**Authenticated** または **Encrypted** を選択します。これらのオプションの詳細については、表 6-1 を参照してください。
- ステップ 4** Enterprise Parameters ウィンドウ最上部の **Update** をクリックします。

- ステップ 5** クラスタ内のすべてのデバイスをリセットします。P.1-11 の「[デバイスのリセット、サービスの再起動、またはサーバおよびクラスタのリブート](#)」を参照してください。
- ステップ 6** 変更内容を有効にするため、Cisco CallManager サービスを再起動します。
- 

**関連項目**

- [ボイスメールのセキュリティの概要 \(P.6-2\)](#)
- [対話および制限 \(P.1-6\)](#)
- [Device Security Mode 設定 \(P.6-11\)](#)
- [セキュア ボイスメール ポート設定用チェックリスト \(P.6-12\)](#)

## 単一デバイスに対するデバイス セキュリティ モードの設定

単一デバイスにデバイス セキュリティ モードを設定するには、次の手順を実行します。この手順では、デバイスはデータベースに追加済みで、証明書が存在しない場合は証明書が電話機にインストール済みであることを前提としています。

デバイス セキュリティ モードを初めて設定した後やデバイス セキュリティ モードを変更した場合は、デバイスをリセットする必要があります。

Device Security Mode のデフォルト設定はノンセキュアです。

### 手順

- ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Feature > Voice Mail > Voice Mail Port** を選択します。
- ステップ 2 デバイスの検索対象を指定してから **Find** をクリックするか、**Find** をクリックしてボイスメール ポートすべてのリストを表示します。

ボイスメール ポートをデータベースに追加していない場合、そのポートはリストに表示されません。ボイスメール ポートの追加については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
- ステップ 3 ポートの設定ウィンドウを開くには、デバイス名をクリックします。
- ステップ 4 **Device Security Mode** ドロップダウン リスト ボックスを見つけます。
- ステップ 5 Device Security Mode ドロップダウン リスト ボックスから、設定するオプションを選択します。オプションの説明については、表 6-1 を参照してください。
- ステップ 6 **Update** をクリックします。
- ステップ 7 **Reset Port** をクリックします。

**関連項目**

- [ボイスメールのセキュリティの概要 \(P.6-2\)](#)
- [対話および制限 \(P.1-6\)](#)
- [Device Security Mode 設定 \(P.6-11\)](#)
- [セキュア ボイスメール ポート設定用チェックリスト \(P.6-12\)](#)

## Voice Mail Port Wizard での Device Security Mode の設定

Voice Mail Port Wizard で既存のボイスメール サーバの Device Security Mode を変更することはできません。既存のボイスメール サーバにポートを追加すると、現在設定されているデバイス セキュリティ モードが自動的に新規ポートに適用されます。

既存のボイスメール サーバのセキュリティ設定を変更する方法は、[P.6-7](#)の「[単一デバイスに対するデバイス セキュリティ モードの設定](#)」を参照してください。

Voice Mail Port Wizard で新規ボイスメール サーバの Device Security Mode を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Feature > Voice Mail > Voice Mail Port Wizard** を選択します。
  - ステップ 2 新規ボイスメール サーバにポートを追加するには、該当するオプション ボタンをクリックして **Next** をクリックします。
  - ステップ 3 ボイスメール サーバの名前を入力し、**Next** をクリックします。
  - ステップ 4 追加するポートの数を選択します。
  - ステップ 5 Device Information ウィンドウで、Device Security Mode ドロップダウン リストボックスから **Authenticated** または **Encrypted** を選択します。『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の説明に従って、その他のデバイス設定を実行します。**Next** をクリックします。
  - ステップ 6 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の説明に従って、設定プロセスを続行します。Summary ウィンドウが表示されたら、**Finish** をクリックします。
-

## 認証または暗号化のためのボイスメール ポートの検索

セキュリティ機能に関連付けられているボイスメール ポートを検索するには、Cisco CallManager Administration の Voice-Mail Port Find/List ウィンドウで Device Security Mode を選択します。

このオプションを選択すると、認証または暗号化をサポートするボイスメール ポートのリストが表示されます。このオプションを選択する場合、デバイスが Authenticated か Encrypted かを指定することもできます。

ボイスメール ポートを検索してリスト表示する方法については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

### 関連項目

*Cisco CallManager アドミニストレーションガイド*

## Device Security Mode 設定

Device Security Mode には、表 6-1 に示すオプションがあります。

**表 6-1 Device Security Mode**

オプション	説明
Use System Default	ボイスメール ポートはエンタープライズ パラメータ、Device Security Mode で指定した値を使用する。
Non-secure	ボイスメール ポートは、セキュリティ機能を使用しない。TCP 接続で Cisco CallManager が利用できる。
Authenticated	Cisco CallManager はボイスメール ポートの整合性と認証を提供する。ボイスメールポートと Cisco CallManager の間で、NULL/SHA を使用する TLS 接続が確立される。
Encrypted	Cisco CallManager はボイスメール ポートの整合性、認証、および暗号化を提供する。ボイスメールポートと Cisco CallManager の間で、AES128/SHA を使用する TLS 接続が確立される。

### 関連項目

- [ボイスメールのセキュリティの概要 \(P.6-2\)](#)
- [対話および制限 \(P.1-6\)](#)
- [セキュア ボイスメール ポート設定用チェックリスト \(P.6-12\)](#)

## セキュア ボイスメール ポート設定用チェックリスト

ボイスメール ポートのセキュリティを設定する場合は、表 6-2 を参照してください。

表 6-2 ボイスメール ポートを保護するための設定用チェックリスト

設定手順	関連手順および関連項目
<b>ステップ 1</b> Cisco CTL Client を混合モードでインストールし設定したことを確認します。	<a href="#">Cisco CTL クライアントの設定 (P.3-1)</a>
<b>ステップ 2</b> 電話機に認証または暗号化を設定したことを確認します。	<a href="#">電話機のセキュリティ設定 (P.5-1)</a>
<b>ステップ 3</b> Cisco Unity 証明書をクラスタ内の各サーバにコピーし、各サーバで Cisco CallManager サービスを再起動します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボイスメールのセキュリティの概要 (P.6-2)</li> <li><i>Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド</i></li> </ul>
<b>ステップ 4</b> Cisco CallManager Administration で、ボイスメール ポートのデバイス セキュリティ モードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティ デバイス システム デフォルトの設定 (P.6-5)</li> <li>単一デバイスに対するデバイス セキュリティ モードの設定 (P.6-7)</li> <li>Voice Mail Port Wizard での Device Security Mode の設定 (P.6-9)</li> <li>Device Security Mode 設定 (P.6-11)</li> </ul>
 <b>ヒント</b> 4.1(3) へのアップグレード前に Device Security Mode エンタープライズ パラメータを設定した場合、このステップは省いてください。ボイスメール ポートは、自動的にエンタープライズ パラメータ設定を使用します。	
<b>ステップ 5</b> Cisco Unity ボイスメール ポートのセキュリティ関連設定タスクを実行します。たとえば、Cisco Unity が Cisco TFTP サーバを指すように設定します。	<i>Cisco CallManager 4.1 Integration Guide for Cisco Unity 4.0</i>
<b>ステップ 6</b> Cisco CallManager Administration でデバイスをリセットし、Cisco Unity Integration Manager を再起動します。	<ul style="list-style-type: none"> <li><i>Cisco CallManager 4.1 Integration Guide for Cisco Unity 4.0</i></li> <li>デバイスのリセット、サービスの再起動、またはサーバおよびクラスタのリポート (P.1-11)</li> </ul>